

豊かな情感と、大地の恵みに満ちた迫力あるハーモニー！
時に激しく、力強く律動する美しい旋律がホールを揺るがす！！

チェコ国立 ブルノ・フィルハーモニー管弦楽団

2007年来日公演では完売公演続出！
約3万人もの聴衆を魅了した
名門オーケストラがファン待望の再来日！！

透明感溢れる弦楽器の音色！
そして華やかに響き渡る管楽器！！

指揮
レオシュ・スワロフスキー

スメタナ
交響詩「モルダウ」

ラフマニノフ
ピアノ協奏曲第2番

ドヴォルザーク
交響曲第8番 ト長調 作品88

ピアノ
ベン・キム
(2006年ミュンヘン
国際音楽コンクール優勝)

photo: Yaeji Moon

写真提供: チェコセンター観光部(チェコ政府観光局)

2009年 **11/1** (日) PM1:00開演
愛知県芸術劇場コンサートホール

主催/中京テレビ放送

お問合せ
お申込み
中京テレビ事業 ☎052-957-3333
〒460-8613 名古屋市中区錦3-15-15 CTV錦ビル6F
(月～金 AM9:30～PM5:30/土・日・祝日休業)

<http://cte.jp>

中京テレビ事業

料金(税込)

S席 10,000円
A席 8,000円
B席 6,000円
学生 3,000円

7月4日(土)AM10:00～
一般発売開始！！

チケット発売所

チケットぴあ(Pコード: 326-283) ☎0570(02)9999
愛知芸術文化センターPG ☎052(972)0430
ローソンチケット(Lコード: 46217) ☎0570(084)004
栄プレチケ92(旧三越PG) ☎052(953)0777
中日サービスセンター ☎052(263)7282
イープラス eplus.jp 他

学生券

ご希望の方は往復ハガキに、希望公演名、公演日時、住所、氏名、年齢、電話番号、学校名、学籍番号を明記の上、中京テレビ「学生券」係までお申込み下さい。公演の3週間前に抽選の上、お席をお取りできるか否かご連絡致します。往復ハガキ1枚につき、1公演1名様でお願い致します。

●出演者等変更になる場合がございます。予めご了承ください。
●未就学児のご入場はご同伴の場合でもお断り致します。

検索

ふたたび、あの「魂の響き」が鳴り渡る。 スワロフスキーとブルノ・フィル、渾身の熱演!

いくつかの曲の冒頭、『モルダウ』の湧き出る泉のような微かなフルートの響き、『交響曲第8番』の朝霞のような弦楽合奏の中から一筋の陽の光を刺すホルン—現代のプロフェッショナルな仕事というものは、多くは「最初の一撃」で帰趨が決まる。2007年10月、久々に来日した「チェコ国立ブルノ・フィルハーモニー管弦楽団」の演奏を聴いて、それを感じた。最初の一撃で私たちの心を曲の持つ世界へと引きずり込んだのだ。

その「ブルノ・フィル」が再びやってくる。またしても魅力的なプログラムを引っさげてだ。

一流のオーケストラに求められるもの—それは、卓越した合奏能力であり、香り高いまでの芸術性であり、そして時に華やか、時にしなやかな美音だろう。「ブルノ・フィル」にはそれに加えて、もう一つのポイントがある。楽団員一人ひとりが持つ「パッション」だ。この「パッション」があるから、音楽が息づいている、私たちに訴えかけてくる。

今回の来日でその「パッション」の集まりを統率するのは、幾世代にもわたって名指揮者を生み出すチェコにあって早くも「未来の巨匠」と折り紙付きのレオシュ・スワロフスキー。チェコの歌劇場とともにだけでなく、度々単独来日して、日本のオーケストラを見事に磨き上げているので、その手綱さばきは実証済みだ。そして、コンチェルトで競演するのは注目の若手ベン・キム。バリバリの職人指揮者、飛び切り生きのいいピアニスト、そして情熱溢れるオーケストラ—そこで何が起こるか、答えは見えたようなものだ。

前回、喝采を浴びたこのオーケストラの特性が十二分に発揮されるカラフルな曲目のプログラムの2009年日本公演。「弦の国、チェコ」という形容詞はこのオーケストラにはふさわしくない。しなやかな弦楽器の美音に加えて、迫力満点な管楽器・打楽器が渾然一体となって、会場全体を興奮の渦に巻き込むのだ。

レオシュ・スワロフスキー Leoš Svárovský

著名なノイマンの下で指揮法を学び、チェコ国立歌劇場でコシュラーのアシスタントを務めた。1991年にカラヤン基金が授与され、ザルツブルグ音楽祭でG. ショルティ、C. アバドのアシスタントを務め、ザルツブルグの国際モーツァルト財団から、その年の最優秀若手指揮者にも選ばれた。

85年ブラハ室内歌劇場管弦楽団、91年～95年ブルノ・フィルハーモニー管弦楽団の首席指揮者を、03年～05年ブラハ国立歌劇場のオペラ芸術監督と首席指揮者を務めた他、チェコ・フィル、ブルノ・フィル、スロヴァキア・フィル、ブラハ放響、ミュンヘン放響等への頻繁な客演をしている。

現在、バルドゥビツェ室内管の音楽監督、ブラハ交響の常任指揮者を務める。最近では、08年チェコ・フィル米国ツアーを任された他、都響、仙台フィル等、日本での客演を多数行い好評を博している。



ベン・キム Ben Kim

1983年、アメリカ・ポートランド生まれ。ピーボディー音楽院でレオン・フライシャーに師事。2005年には、マルタ・アルゲリッチ率いる、選ばれた7人のピアニストのためのイタリア・コモ湖国際ピアノ・アカデミーに参加した。

これまでに、バイエルン放送交響楽団、ボルティモア交響楽団、ミュンヘン交響楽団他、多くのオーケストラと共演。カーネギーホール、ワシントン・ケネディーセンター、ミュンヘン・ガスタイク文化センター、ワルシャワ・フィルハーモニーホールなどでも演奏を披露。

2000年世界ピアノ・コンクールでの第1位ほか、多数の賞を獲得。

最近では2006年、ミュンヘンで開催された第55回ミュンヘン国際音楽コンクール(ARD国際音楽コンクール)で優勝した。

ソニーBMGレーベルよりCDをリリース。

ブルノ・フィルハーモニー管弦楽団 Brno Philharmonic Orchestra



ブルノ・フィルハーモニー管弦楽団は、作曲家ヤナーチェクによって設立され、20世紀後半のブルノのコンサート史における中心的役割をなしている。多くの室内アンサンブルや合唱団を持ち、国際的な評価を得ている。

ブルノ・フィルは1956年以降700回以上のコンサートをヨーロッパを中心に行っている。ヴァチカンでローマ法皇のためのコンサート(2000年)や、トヨタクラシックス(2004年)、ドイツのラインガウ音楽祭(2005年)にも出演し、2006年にはウィーンの楽友協会で行った高い評価を得た。

アンチェル、マッケラス、クルト・マズア、メニューイン、ミュンシュ、クーベリック、ロジェストベンスキーら、多くの世界的な指揮者が指揮をしている。また、世界的なソリスト達、スヴァトスラフ・リヒテル、ブロンフマン、ヴィルヘルム・ケンプ、リル・ジョン、ジュリアン・ラクリン、エヴァ・ウルバノワらと共演している。

チェコ国内では、年間約40回のコンサートを開き、同時にヤナーチェク劇場で開催されるコンサートシリーズにも参加している(年間約25回)。また、毎年ブルノ国際音楽祭に出演し、「ブラハの春」フェスティバルにも定期的に参加している。ベルリン、ミュンヘンなどの音楽祭にも参加し、高い評価を得ている。